



発行責任者
木村博昭
編集
県教頭会会報部
発行
平成23年9月9日

真のリーダーとなるために 自覚をもつて

会長 木村 博昭



本年度、山口県公立学校教頭会の会長という大役をお引き受けすることとなり、その重責を
実感しています。

まず最初に、東日本震災で被災されました皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に対し深くお悔やみ申し上げます。

会員の皆様からお寄せいただいた善意の浄財は、全国公立学

校教頭会に集約され、義援金の総合計が、九百二十八万六千九百三十五円になりました。

- ・ 東北ブロックの教頭会
- ・ 茨城県小中学校教頭会
- ・ 千葉県公立学校教頭会
- ・ 長野県栄村

に送付され、被災された学校のために役立てられていますこと
をお知らせ致します。

また、今年度新会員八十一名、総会員五百一名でスタートし、下関市での春季研修大会を皆様方のご協力により盛会の内に終えることができましたことを心から感謝申し上げます。

教頭職のあり方について

私はこれまで幾度か研修大会に参加してきましたが、各支部の席に空席が目立っていることを危惧しています。

教頭は、学校運営や人材育成の要であり、校長を補佐しなくてはなりません。どんな危機に際しても「疾風に勁草を知る」という故事成語があるように、どしどし構えて対応していけるような存在でありたいものです。

使命観を持って研修を

指導要領の完全実施に伴い、組織としての教育力や課題解決力が一層求められてきました。これらの新しい課題に対応していくには、私たちの共同実践や研修会を通して資質向上をめざしたり、危機管理能力として小さな問題でも用心して早めの対処やどんなことにも対応できるように過去の事例を参考にしたりして、職務としての能力を怠りなく磨いておくことが大事ではないでしょうか。

独りを慎む

前のことが職務としての能力であるならば、独りを慎むは、春季研修大会でも申しましたが、自分自身を美しく磨けていくことだと思っております。先人の智慧をもとに、自分を律し、磨いていくことを怠らないことです。

七月末に衆議院会館に要請訪問をした時のことです。他県の某国會議員が近くを通りかかりました。その方は、心にも疚しいところがないのでしょうか、颯爽としておられ、オーラを感じ近寄りたいたい思いをしました。優れた人物は、風格などになつて表れるのでしょうか。

秋季研修大会に向けて

さて、多岐にわたる課題に対して新たなテーマで三年間研修を深めて行くこととなります。何が子どもたちにとって、学校にとって大切なのかを見極め、認め合い・褒めあい・ユーマアのある同僚性豊かな学びの場を構築していきましよう。互いに研鑽して行きましよう。ご支援のほどよろしくお願ひします。

支部 だより

岩国・和木支部

- ① 学校数
- ② 会員数

- ① 小学校三十七校
中学校 十八校
- ② 五十九名



今年度も、小学校が一校休校となり、小中五十五校、五十九名の会員でスタートしました。今年度は、県の「組織的な学校運営による学校の総合力の向上」の取組について、教頭としてどのように関わっていけばよいかを五つのテーマに沿って個人の研修もあるが、小中合同でグループ研修を年間八回、計画をし情報交換を行います。情報交換により、教頭としての資質の向上に努めています。

柳井支部

- ① 小学校十二校
中学校 四校
- ② 十六名



研修組織としては、県の組織に合わせた会報部・研修部・法制部・調査部の4専門部を置き、役割分担をして意欲的に研修活動に取り組んでいます。本年度の主な活動は、以下のとおりです。

四月 組織作り・研修計画立案
六月、七月 教育関係法令研修
十二月 一般研修・情報交換
二月 指導者招聘研修・まとめ
また、それぞれの部会研修や市内四ブロックの単位教頭会で連絡や情報交換をして教頭としての資質の向上に努めています。

周防大島支部

- ① 小学校十二校
中学校 五校
- ② 十四名



上関町、平生町、田布施町の小学校九名、中学校三名の教頭で組織しています。年間四回の定例の研修会を実施しています。今年度は県教頭会の発表の年にあたり、臨時研修会を二回ほど設け、研修課題発表内容についての協議を行う予定です。また、それぞれの学校で抱え

熊毛支部

- ① 小学校 九校
中学校 三校
- ② 十二名



本支部は、中学校の統廃合及び児童生徒数の減少による教頭配置廃止のため、十四名で組織しています。本年度、二名の新任教頭が着任し、新しい風を吹き込んでくれました。本支部の活動内容は、昨年度を引き続き、年四回の全体研修会を中心に行っています。また、小中合同の教頭会組織であることを生かして、各中学校区での研修会を教頭が中心になって運営することで、小中連携を進めるための一助となっています。

周南支部

- ① 小学校三十一校
中学校 十七校
- ② 四十九名



ている課題や各校の実践例について紹介し合い、話し合うことで情報の共有化や、学校間の連携や協力体制を深め、さらに信頼される学校づくりに役立たせていきたいと思っています。

昨年度まで、小学校の休校が相次ぎ三十一校となりました。(内教頭一人制は小学校三校、中学校が二校です。) 小中学校合わせて四十九名の会員で、例年どおり合同部会を六回、小中別の部会を四回開催しています。本年度は県の秋季研修大会開催のために小中合同教頭会の各部会で準備を進めていくために、開催回数を多くする予定です。小中合同の教頭会として五年目を迎え、本年度は運営も軌道に乗り、小中学校相互の連携も深め、充実した活動が行われています。

下松支部

- ① 小学校十校
中学校三校
- ② 十三名



一 組織と運営

下松支部は、小学校十名、中学校三名の計十三名の教頭で組織しています。組織運営は、中学校区ごとに全体運営部、調査部、研修部からなっており、原則月一回の研修活動を開催しています。小中合同、中学校区組織という利点を生かし、小中連携や小中の情報交換の場として大いに機能しています。

二 研修の概要

定例の研修会について 毎回、市教育委員会学校教育課長から、管理職としての資質向上や法令研修、学力向上対策、学校の活性化に向けた学校運営の在り方などについての指導講話をいただいております。われわれ教頭にとつて大変有意義な研修会となっております。また、県教頭会理事会報告や各校の持ち寄り議題からの情報交換などを行っています。

ブロック研修について

本年度は県教頭会発表一年次にあたっており、「教育環境整備に関する課題」について中学校別のブロックに分かれ『連携』をキーワードとして、小中連携や地域との連携をどのように強化推進していくかを協議しながら研修を深めています。

光支部

- ① 小学校十一校
中学校 五校
- ② 十八名



原則として月に一度の研修会を開催し、市教委から指導を受けたたり、指導者を招聘して研修を実施したりしている。小中合同の教頭会である利点を生かし、小中の情報交換の場として活用しています。

本年度の研修主題は昨年度に引き続き、研修主題「学びの連続性を取り入れた教育課程の編成と教頭の役割」く小中連携による学力向上への取組を設定しました。 中学校区を単位に小中連携の取組（家庭生活のしおり、授業

改善）を各中学校区になじむ

形・方法で実践し、成果や課題をまとめて秋季大会の発表に備えています。現時点では、昨年度と同様に、①大和地区（中一校小四校連携）②島田地区（中一校小四校連携）③浅江・光井・室積地区（中一校小一校連携）の三地区に分け、グループでの実践を評価している段階です。各地区でどのように連携を続けていくことが学力向上に繋がるか鋭意協議をしています。

防府支部

- ① 小学校十七校
中学校十一校
- ② 三十名



四月に第一回小中教頭会研修会を開催し、市教委からの指導講話及び伝達指示を受けた後に、小・中学校に分かれ本年度の組織づくりと研修計画立案を行いました。五月から二月までは、月一回の予定で研修会を開催しています。市教委からの指導的言及び伝達指示を受けるとともに、一人ひとりの持ち寄り議題を協議することを通して研修を深めていく予定です。なお、七月は、小・中学校合同で法令研修を行いました。

山口支部

- ① 小学校三十二校
中学校十七校
- ② 五十八名



山口支部では、県立学校等四校（四名）の部主事等も加えて、研究を進めています。

小中別の部会研修会を基本として研修を重ねていますが、資質向上と小中連携を深めるため、年二回の合同研修会を実施しています。

本年度は、小学校部会が秋季研修大会での提言発表を任されていますので、「学校運営組織力を高めるための教頭の役割、人材育成に向けての組織づくり」を主題に掲げ、焦点化した研究を進めています。

萩・阿武支部

- ① 小学校二十三校
中学校 十七校
- ② 三十九名



基本的には、小中学校それぞれの立場で活動していますが、連携を取りながら、必要に応じて協力しています。

年間九回の研修会では、特に学校管理・運営に関する法令研修を小中合同で講師を招聘して実施しています。

小学校は、学校運営上の諸問題の解決に向けた実践発表や情報交換を行い、中学校は、「確かな学力の定着を旨とした学校間の連携を活かす教育の推進」を主題として、教頭の役割について研修しています。

長門支部

- ① 小学校十一校
中学校 六校
- ② 十八名



昨年度から中学校が一校減となり、さらに小さな組織となりましたが、小中合同で年間八回の研修会を開催しています。

主な研修内容は、「学校運営上の諸問題」「教頭の職務と教育法規」等です。

教育長や教頭会顧問の校長から指導を受けるとともに、三つの専門部（事例研究部・法制部・研修部）からの提案研修を実施し、実践発表や情報交換を行いながら、管理職としての資質の向上をめざしています。

宇部支部

- ① 小学校二十四校
中学校 十三校
- ② 三十九名



広域合併後七年目になり、小・中学校合同で研修会を行うなど一体感も強まってきています。

特に今年度は、市内すべての小中学校で「学びの創造」推進事業が進められ、「学び合い」を保障する授業実践が行われています。

小中連携も推進され、各中学校区内の教頭同士の繋がりもより緊密となっています。

また、小・中学校とも毎月研修会を開催し、情報交換を行うだけでなく、教頭としての資質の向上をめざし、テーマを決めて研修を重ねています。

山陽小野田支部

- ① 小学校十二校
中学校 七校
- ② 二十三名



本年度は年六回の定例研修会と二回の法令研修会を予定して

います。

また、平成二十三年度中国地区公立学校教頭研修大会（島根大会）第五分科会における、「教職員の資質能力の向上と教頭のかかわり」を信頼づくりと組織力向上の視点から以下についての発表に向け、以下の予定で準備を進めています。

- ・六月 実践事例の持ち寄り
- ・七月 発表原稿の作成
- ・八月 発表原稿の確認
- ・十月 原稿発表リハーサル
- ・十一月 中国大会発表

美祿支部

- ① 小学校二十二校
中学校 八校
- ② 二十五名



二十四年度の県大会では「教育課程」の発表をすることになっており、研究テーマを「小中連携における教頭のかかわり」としました。小学校から中学校への円滑な接続・義務教育九年間を見通した児童生徒の育成をめざし、中学校区別八班に分かれ、研修を進めています。毎月一回程度の研修日を計画

し、教育委員会指導の後、研修内容に沿った班別研修を重ねています。さらに班ごとの発表等により、県大会での発表内容を絞り、発表原稿を作成していく予定です。

下関支部

- ① 小学校五十二校
中学校二十二校
- ② 八十二名



下関支部は教頭無配置校も含め小中合わせて七十四校の大規模市となり、組織、研修も小学校・中学校に分かれ実施しています。

小学校は、平成二十三年度には第六分科会二年次と第二分科会一年次、平成二十四年度には第二分科会二年次と全国大会第二分科会の発表となっています。会員が多いため、今後も毎年複数の分科会を担当させていただきますこととなります。今年度は「キャリア教育を支える体制づくり」を重点課題として研修に取り組んでいます。

新任教頭として

新米教頭の四か月

岩国市立麻里布小学校
教頭 藤井 康

「おはようございます。」
四月八日、初めて見た私の声に怪訝な顔をしながら挨拶を返してきた子どもたちの顔も今ではすっかり緩み、名前を覚えて話しかけてくれるようになってきました。

同様に、私も教頭の仕事・役割を覚えてきました。四月当初の、やる気は十分あるのに何をやったらいいのかが分からないというもどかしさ。学校のことを一番知っているべきなのに、自分が一番知らないという情けなさ。それが、校長や第一教頭に支えられ、ここまでくることができました。

現在本校は、耐震改修工事の真っ最中。七月に入ってからはそのに伴う交通指導や児童・施設管理などで息つく暇もありません。しかし、それが嬉しく、学校のために働いている・少しでも貢献できているという実感があります。

まだまだ教頭としては未熟で

本来の仕事の何分の一しか出来ていませんが、学校のため、笑顔で挨拶してくれる子どもたちのため、先生方のために、一生懸命に務めていきたいと思っています。

担任からの贈り物

柳井市立大島中学校
教頭 五島 均

毎朝の日課として、どの学校でも同じだと思いますが、校舎出入口の開錠という仕事があります。本校の場合、一階の出入口をあけ、生徒の下足箱の点検、教室、トイレ周り等、一つひとつ見て回ります。教室の机の状態や、掲示物、下足の状況を見ていますと、生徒と担任が前日にどんな学校生活を送ったか垣間見る思いがします。特に教室では、黒板には、担任の先生が生徒にどんなメッセージを伝えたのか、その形跡が残っています。「忘れ物をしない」「最後までやりぬく」「協力」・・・等々。しばらくすると、生徒が登校

してきて、挨拶や何気ない会話から、前日の「担任からの贈り物」を生徒がどう受けとめたかが伝わってきます。明るく挨拶してくる生徒、ちよつと眠そうな生徒、なんとなく元気がない生徒・・・。反応はまちまちですが、今日一日の学校生活を終えて帰路に着くときには「明日も元気に学校に来るぞ!」という気持ちをもって帰ってほしいと願っています。

教頭として赴任して四か月が過ぎようとしています。毎日の報告や庶務に追われながらあつという間に一日が過ぎていく中、絶景の大島瀬戸が眺められる朝の見回りは私にとって、とても気持ちの時間となっています。日々、成長していく生徒の元に支えられながら、これからも生徒、教職員共に明日も来ようと思える学校づくりに努めていきたいと思っています。

凡事徹底

下松市立末武中学校
教頭 清 寿光

この四月から、ご縁がありまして末武中学校にお世話になることになりました。不慣れな所も多く、山口県公立学校教頭会の諸先輩方のご指導の下、努力を重ねてまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて、本校は、生徒数七百五十七名の大所帯ですが、明朗かつ素直で素朴な生徒が多く、あいさつ運動、清掃活動等に積極的に参加しています。また、多くの職員も、朝早くから放課後の部活動まで生徒と共に、汗を流している熱意のある先生方が揃っています。

このことは、日頃から生徒・職員が「凡事徹底」に努めている証であり、あいさつ・返事・時間厳守・掃除・部活動・授業など多くのことが当たり前にできる集団へと成長しています。それを徹底して行うことで、更に生徒や職員の資質を高め、保護者や地域から信頼される学校へとつながるものと確信しています。

人材を人財に…

防府市立松崎小学校
教頭 藤井 俊亮

昨年、教頭昇任と同時に、民間企業での一年間の長期社会体験研修に派遣していただいた。入社試験で多くの学生を面接し、高卒・大卒の若者とともに厳しい新入社員教育を受けた。我々の教え子たちが、学校の出口や社会の入口で懸命に頑張っている姿を垣間見ることができた。また、新興国が台頭し、長く経済が低迷している今の日本企業が求めている人材がどういうものかを知ることができた。

社長が、「教育には莫大な費用と労力と真心が必要です。教育を疎かにする組織に未来はない」と熱く語っていらつしやうたことを思い出す。顧客からの信頼を得て、会社に利益をもたらす人材を育成できるかどうか、会社の命運を大きく左右する。

わが教育界も大量退職・採用時代を間近に控えている。教育課題が増え、求められるものが高度で難しくなってきた教育現場で、若手教師が自らの仕事に誇りをもち、生き生きと子どもに対することができるよう、人材を「人財」に育てる力添えをしていきたい。

新任教頭としての所感

萩市立萩東中学校
教頭 岡田 淳子

「萩市ですか？」あまりの遠さに思わず上司に聞き返した日から四か月。家事一切と高校生の子の毎日の弁当作りを主人に任せ、単身赴任生活が始まりました。学校は、生徒数も教職員数も多く、二人教頭制の伝統校です。学校全体が活性化にあふれ、毎日が楽しく、動きながら考え、考えながら動き、人に頼りっぱなしで一学期が終わったというのが現状です。

その多忙な毎日の中で第一教頭先生をはじめ、市内の教頭会の諸先輩方には本当に温かく親切に様々なことを教えていただきました。初めての教頭会では、三年ぶりの現場と慣れない土地の緊張感で体をこわばらせていた毎日の中で、先輩方の明るい笑顔と開放的な雰囲気に出会うことができて、心からほっとしたことを今でも思い出します。

こういった温かい仲間への支えが、地域や人への愛着となり、仕事へのパワーにつながるような気がしております。本当にありがたいことです。私も職員室の中でそういう存在でありたいと考えています。

家族あつての…

山口市立平川小学校
教頭 兼重 彰洋

初めての山口市勤務、我が家から初めて離れての生活。環境が一変し慣れない生活のためか四月当初は疲れも倍増していたように思います。「体を壊さないように」と、たくさんの人から声をかけていただき、周囲の方々に支えていただきながら今日に至っています。全校児童が千人を超える大規模校に勤務するのも初めてです。職員の多さ、児童の多さにも驚くばかりでした。日々いろいろなることが起こりますが、学年部や生徒指導部を中心に、子どもたちが毎日元気に笑顔で通える学校づくりに全校体制で取り組んでいます。

現在、山口に下宿していた息子と共同生活をしています。相違いもし単身だったら…。相違い加減な食生活だったと思います。料理、洗濯、掃除、その他細々したことすべてを家族に甘えていたことに気付きました。今さらながら反省しています。家族からいつも元気をもらって仕事ができていることに感謝しています。

これからも、感謝の気持ち忘れず、千の笑顔と毎日出会えることを楽しみにしながら仕事に励んでいきます。

手入れとは手で整えること

下関市立川中学校
教頭 前原 隆志

本校は、県内で初めて教科センター方式を大規模校に導入し、二年目を迎えます。全校生徒六百七十二名が、バッグに教科書やノートを詰め込んで一斉に教科教室へ向かう姿は壮観です。それでも授業の二分前には着席し、黙想をして授業開始を待ちます。この静けさを作り出すためには先生方の並々ならぬご苦労があったと感じます。

こうした環境の中、私は、全ての通学用自転車と空き教室の机を揃えることを日課にしています。登校してくる生徒に声をかけながら自転車を左ハンドルに揃えていると、置き方一つにそれぞれの生徒の気持ちが見えてくることに気付きます。また、毎日机を並べていると、学級経営や教科経営の工夫点や課題が見えてきます。

若い頃、花壇の世話をしながら先輩の先生から「手入れとは実際に手でさわって整えていくことだよ」と教えていただいたことを思い出します。恵まれた環境でも規模が大きくても毎日の手入れを怠らず、一層教育効果の上がる学校にしていきたいと思っております。

新任教頭として

下関市立川中小学校
教頭 中田 みゆり

昨年度途中の異動で、新任教頭として着任しました。教頭としての仕事、慣れない土地での生活や週末の長距離運転など初めてのことへの不安と、途中異動のための困難さ等ありましたが、校長先生の温かいご指導により支えていただきました。

途中異動は、前教頭先生の取り組まれた流れを受け継ぎ、学校教育活動のようすや成果を見ることができるといふよさもありました。お陰で今年の四月は一年間の流れが見通せて、気持ちにもゆとりをもってスタートすることができました。

本校は、学習指導や生徒指導、諸課題解決に向けて常に協働体制で取り組んでいます。私も教頭として先生方とのコミュニケーションを大切にしながら情報収集し、保護者や地域ともつながって諸課題の解決に向けてリーダーシップを発揮していきたいと思えます。また円滑な学校運営のため校長を補佐できるよう努めていきたいと思えます。

法制部

部長 湊谷 道彦

生命を尊重する心やお互いを思いやる心などの豊かな心の育成や、確かな学力・学習意欲の向上、コミュニケーション能力の育成、健康・体力の向上など学校教育の課題は多岐にわたっています。

これらの課題に対応するために私たち教頭は自らの資質や能力を高め、強いリーダーシップを発揮して、児童生徒一人ひとりの学びの保障と夢や希望を描くことができる魅力ある学校の実現をめざさなくてはなりません。そのため教育環境の整備・拡充など改善や検討が強く求められています。

本教頭会も政策提言能力をもつ職能団体として、教育現場のニーズをしっかりと反映していかなければならぬと考えています。法制部としては、教育関係諸機関、諸団体との連携を図り、児童生徒の教育効果を高めるために教育諸条件の改善・教職員の資質の向上及び教頭の地位向上・待遇改善をめざしてまいります。

具体的な活動にあたっては、調査部が実施した調査結果などをもとに、実情に即して進めていきたいと思っています。

活動計画

- 六月 県アンケートの実施
- 七月 状況分析
- 八月 全国教頭会要請部長会議
- 八月 県選出国会議員への要請
- 八月 関係教育団体との協議会
- 十月 県教育委員会への要望
- 一月 報告まとめ

研修部

部長 岡本 壽之

春季研修大会を終えて

去る六月十日に下関市生涯学習プラザにおいて、春季研修大会が行われました。午前中は、総会行事・研修大会開会式があり、今年度の組織・行事計画等が承認され、新たな一歩を踏み出すことができました。

今年度は、第九期の一年次として、全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」について、第八期の研究成果を生かし主題解明

に努めていきたいと考えています。午後からは、下関市立長府博物館館長古城春樹氏を講師に迎えて「幕末に学ぶ」という演題で、幕末の長州藩士の行動を追いながら、現代の激動の時代と重ね合わせリーダーのあるべき姿の指針を示されました。

秋季研修大会に向けて

十一月二十五日に周南市で行われる秋季研修大会の分科会と課題は第九期の全国共通課題に基づいた次の六課題六分科会です。

- 第一分科会 教育課程に関する課題
- 二年目 美術
- 二年目 光
- 第二分科会 子どもの発達に関する課題
- 二年目 下関(小)
- 二年目 防府(中)
- 第三分科会 教育環境整備に関する課題
- 二年目 下松
- 二年目 熊毛
- 第四分科会 組織・運営に関する課題
- 二年目 岩国・和木(小)
- 二年目 山口(小)
- 第五分科会 教職員の専門性に関する課題

会報部

部長 永田 博昭

今年度から二年間、第二地区
(光市・下松市・周南市・防府

- 「二年目 周防大島」
- 「二年目 山陽小野田」
- 第六分科会
- 教頭の職務に関する課題
- 「二年目 長門(中)」
- 「二年目 下関(小)」

この六分科会は、継続性・協働性・関与性を研究の柱とし、一期三年間を二年ずつのサイクル(一年の重複)で、研究を進めていきます。研究成果については、各分科会において担当支部による提言発表をお願いしているところ です。

また、分科会は小中合同の参加型で行います。皆様の積極的なご参加をお願いします。提言担当の各支部をはじめ、大会引き受け地区の周南支部におかれましては、ご多用の中ご苦勞をおかけしますがよろしくお願ひします。

市)の七名が担当します。

会報部の活動の中心は、「会報」と「かなめ」の発行です。両方とも、県教頭会の活動(県教頭会としての活動・各支部の活動等)を会員の教頭先生方に広く知っていただくことと、会員間の情報交換に役立つものと考えています。

今年度も昨年度と同様に、「県教頭会ホームページ上での発行となります。」「会報」「かなめ」の内容を充実させることはもちろんですが、ホームページをできるだけ多くの会員の皆様に開いていただき、その他の情報とともに、「会報」「かなめ」をしっかりと読んでいただきたいと考えています。

「会報」や「かなめ」の充実には、会員の皆様の原稿へのご協力がなければあり得ません。今回の「会報」も皆様のご協力で無事発行できました。次の「かなめ」でもご協力をよろしくお願ひします。

活動計画

- 六月・第一回会報部会
編集方針・活動計画
- 七月・「会報」原稿依頼
- 八月・「会報」原稿収集
・第二回会報部会

- 「会報」編集・校正
・第三回会報部会
- 「会報」最終校正
- 九月・「会報」第三十三号発行
- 十月・「かなめ」原稿依頼
・第四回会報部会
- 「かなめ」編集
・第五・六回会報部会
- 十二月・「かなめ」校正
- 一月・第七回会報部会
- 「かなめ」最終校正
- 二月・「かなめ」第三十二号発行

調査部

部長 藤友 秀樹

今年度は、第三地区七名が調査部を担当することとなりました。

調査部は、県内の教頭先生方の勤務の実態把握及び教育条件の整備に役立つ資料作成を主な活動としております。一学期には、大変お忙しい中を、全国および県のアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございます。

タを集計・分析し、できるだけわかりやすい資料として整理したいと考えています。

過去の調査結果をみましても、学校教育をとりまく状況はますます複雑多様化し、教員が落ち着いて子どもと向き合う時間の確保が難しくなっているように感じます。教頭として力を注ぎたい業務は、授業をはじめとした学校の教育活動全体を見渡し、各学年や教職員ときめ細かな連絡調整や支援を施しながら、学校運営の更なる充実を図ることであると思います。しかしながら、現状は、膨大化してきた雑務に忙殺され、教頭としての本来の役割に腰を落ち着けて取り組めない場合が多いようです。これでは学校教育の質の向上など無理な話です。

教育改革という言葉が使われはじめてかなりの年月が経過していますが、ここでも一旦、教育における我々の常識をすべて疑い、思い切ったスクラップを行うことが改革へのステップとして欠かせないように思います。このたび調査部で整理する資料が、単なる状況把握のみに終わることなく、教育改革を進めるためのバックデータの役割を果たせるものであればと思います。そうした意味でも、調査

結果を踏まえ、法制部などと連携しつつ、今後に向けた具体的な提言やその実現に向けた行動につながるよう努力したいと思います。

今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。

活動計画

- 五月 調査部発足
組織づくり
全国調査配布
- 六月 山口県調査配布
各調査の実施
- 七月 各調査回収・集計
- 八月 各調査集計
- 九月 調査結果編集会
(編集と校正)
- 十月 調査結果校正
- 十一月 調査結果の発表
- 十二月 教頭会HPに掲載

「学校運営必携」の作成にあたって

学校運営必携作成委員会

更に充実した「必携」へ

平成二十年度末に学校運営上の諸問題に的確に対応するため、

日常的に活用できるガイドブックとして、「学校運営必携」(以下、必携)が作成されました。

異なる視点から原稿を検討することで、より使いやすい必携を作成するために、県内の各地区で担当原稿を変更して確認作業を行っています。

昨年度の本会報によると、教頭会ホームページのアクセスランキングでは、第一位であったということなので、多くの教頭先生方に手にしてもらえたものと思っております。私は、この必携を常に手に取れるところにおいています。

例えば、「育児休業」についての質問が校内の先生方から出された時は、まず、必携に手を伸ばします。必携には「育児休業」の概要がコンパクトにまとめられていますので、大まかなところはこれで分かります。

また、関連する法令も明記してあるので、必要に応じて、教育小六法や教育関係法令要覧に目を通すというように、まさにガイドブックとして活用しています。

これからも、更に使いやすい必携をめざし、バージョンアップを続けていきますので、ご意見・お気づきをお寄せください。会員全員の力で「役に立つ」

「使いやすい」必携を作ってくださいましょう。

教頭会ホームページの一層の活用について

IT推進委員会

教頭会HPにアクセスを!

八月二十五日のホームページへの平均アクセスを見ると「三十九」。平成二十一年度は「三十三」で、今年はその若干下回っています。年度末と年度途中の数字の比較なので、そのままアクセス減という評価にはならないと思いますが、分析は必要でしょう。

他県のHPはどうでしょうか。全公教で確認できた公式HP開設は二十団体です。閲覧した結果、「本県のHPはクオリティが高い」ことが分かりました。具体的には「ID・PASSによるログインで高セキュリティ」「多彩な内容」「分かりやすくまとまりのあるWEBデザイン」「定期的な更新」などです。これは「本県のHPが使える」ことを示しています。ゆっ

くりHP閲覧もままならない状況と思いますが、まずは一度アクセスしていただき、お知らせしているパスワードでログインしてみましよう。ある県のHPにはBBS(掲示板)が開設されていますが、利用者がないために閉鎖になっていました。情報の提供・発信だけでなく、双方向の情報交換・共有が求められるのではないかと考えます。そのためにも、お気づき・感想をぜひ教頭会までお願いいたします。